

◆出土遺物

瓦、陶磁器等コンテナ 1 箱相当。

出土遺物のほとんどは近代以降の陶磁器でした。中には伊達家の家紋である九曜文の軒丸瓦、高級品である江戸期の色絵皿等も出土しました。また、近代資料の中にも伊達家の家紋である「竹に雀」文の小杯があり、注目される資料です。



九曜文軒丸瓦
比較的直径が小さいため、土塀の瓦と思われる



色絵皿
施釉焼成後、彩色して焼き付けた磁器を色絵という。高級品。時期は江戸後期と思われる。

◆今回の調査成果について

御浜御殿の姿がわかるものは、国指定名勝天赦園と伊達博物館の庭にある偕楽園以外には残っていません。そのため、御殿内部の遺構の位置などを推測することは資料が少なく困難でした。今回の調査で絵図と照合できる遺構が発見できた事は非常に大きな成果です。

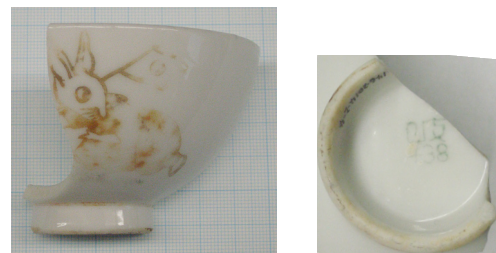
残念ながら今回発見した土塀の基礎は工事により無くなってしまいますが、成果については天赦公園内に看板を立てて市民の皆様へお伝えする予定です。



竹に雀文小杯
銅版転写で施文されているため、明治期と考えられる



近現代の小杯
「発展」は佐伯町にあった土居酒造で作られていた日本酒。



統制陶磁 子供茶碗
戦時中岐阜県で作られていた陶磁器

排水管敷設に伴う発掘調査

天赦公園発掘調査現地説明会

◆調査の概要

宇和島市天赦公園の排水管敷設工事に先立つ発掘調査において、宇和島藩主の御殿『御浜御殿』に係わる建物跡（土塀）を確認しました。今年 1 月の馬屋跡の調査に続いて、藩主御殿内の施設が発掘調査によって明らかとなりました。

調査地：宇和島市天赦公園 土地面積：1790㎡ 調査面積：約 60㎡

◆調査の経緯

平成 25 年度 国道拡幅工事に伴う市排水管移設工事について協議。県教委への届出を行い、発掘調査の勧告を受ける。

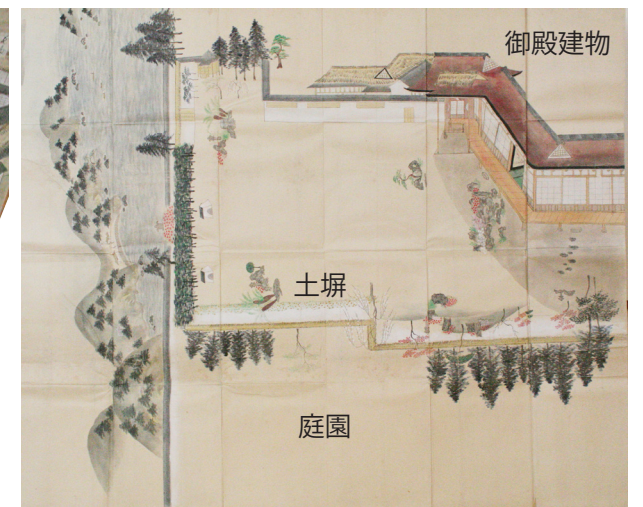
平成 26 年 2・3 月 国道拡幅工事分について県教委が試掘調査を実施。発掘調査の勧告を受ける。

4・5 月 愛媛県埋蔵文化財センターによる発掘調査。土塀跡を確認。

7 月 宇和島市教育委員会による発掘調査。県埋文調査で確認した土塀の延長を確認。

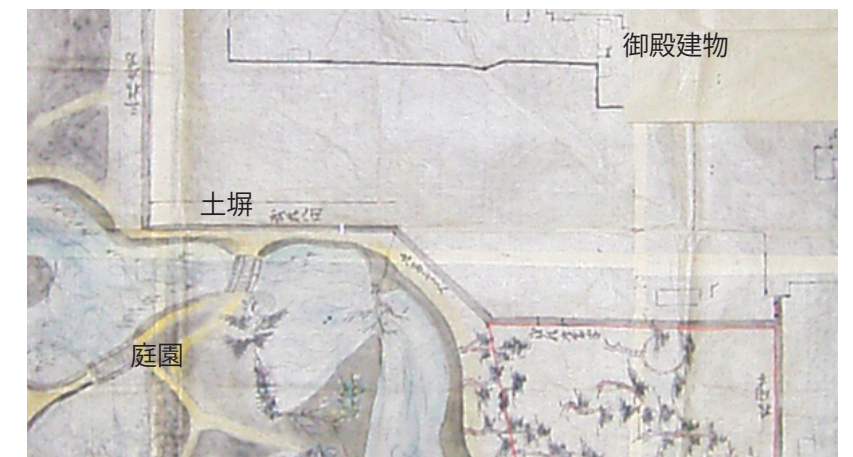


■明和 6（1769）年絵図（（公財）宇和島伊達文化保存会蔵）

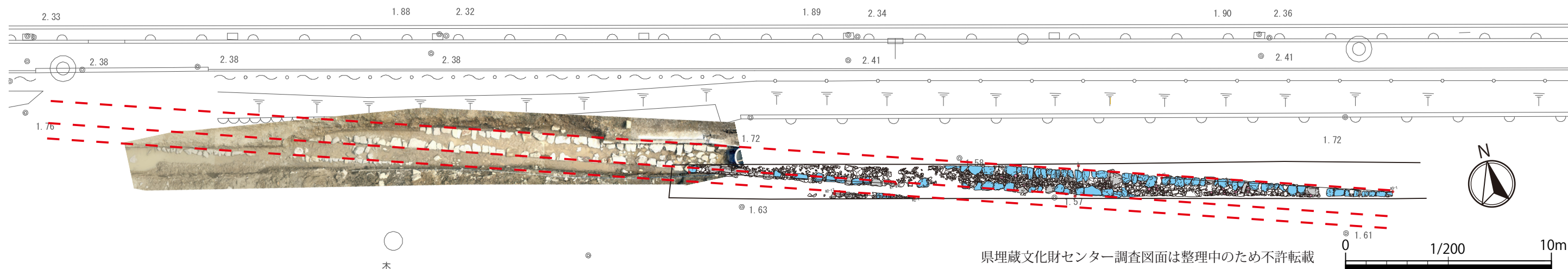


◆御浜御殿について

今回の調査地は御浜御殿のほぼ中央に位置しています。御殿内の区画は宇和島城側に政庁である御殿建物があり、西側及び南側は庭園及び隠居用の屋敷などの藩主のプライベート空間となっていました。今回の土塀は政庁部分と庭園部分を区画するものと考えられます。



■文政 8（1825）年隠居所新築図（部分）（（公財）宇和島伊達文化保存会蔵）



■調査区平面写真図

◆御浜御殿内の土地利用の変遷

御浜御殿は、明治維新以降 7 代藩主宗紀公の隠居所であった天赦園等の一部の施設を除いて、藩主の居館としての性格を失いました。御殿の中央には東西に走る道路が出来、特に庭園部分は水田となりました。大正 9 年には豊後橋の南にあった宇和島中学が庭園部分北半部に移転し、昭和 37 年以降の国道 56 号線の整備、昭和 42 年の公園整備を経て現在の形となったようです。水田だったころの古写真を見ると、水田と道路の間に三角形の区画が確認できます。土堀礎石は畦道のような状況だったと考えられます。



天赦公園付近古写真（昭和 30 年頃）
交差点より城南中学校方向を望む

◆調査によって確認された遺構

土堀跡 検出長：約 50m 幅：約 1m 最大高：約 50cm

基礎は砂岩・礫岩の割石と自然石が混じり、1～2 段積まれていました。矢穴（石を割る時のくさびの跡）の大きさは幅 5cm 程度であるため、江戸後期のものと推定できます。

側溝石列 検出長：40m 弱 幅：20cm 弱 最大高：約 40cm

土堀基礎に比べて小型の砂岩割石が並んでいます。石の辺ではなく角を下にした積み方は明治以降のものと推定できます。

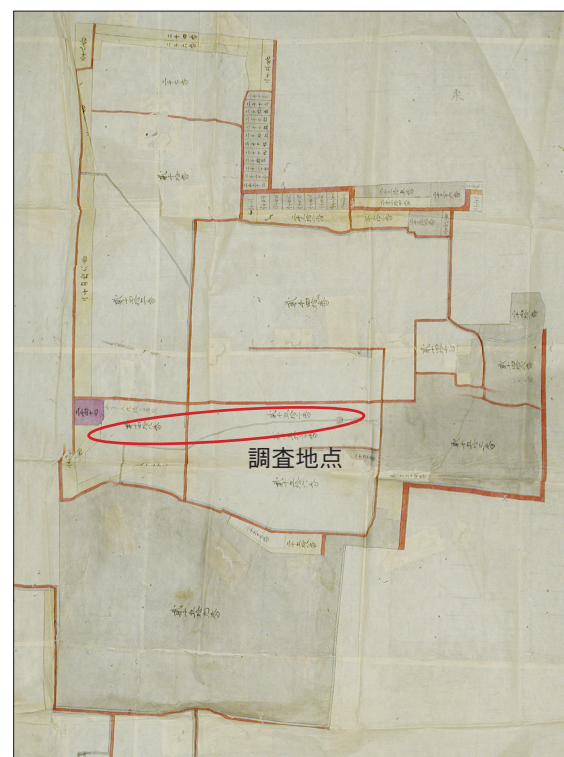
その他 土堀礎石を被覆する土はガラス片等を含み、出土した陶磁器も近現代のものがほとんどであったことから、グランド整備時の造成土と考えられます。



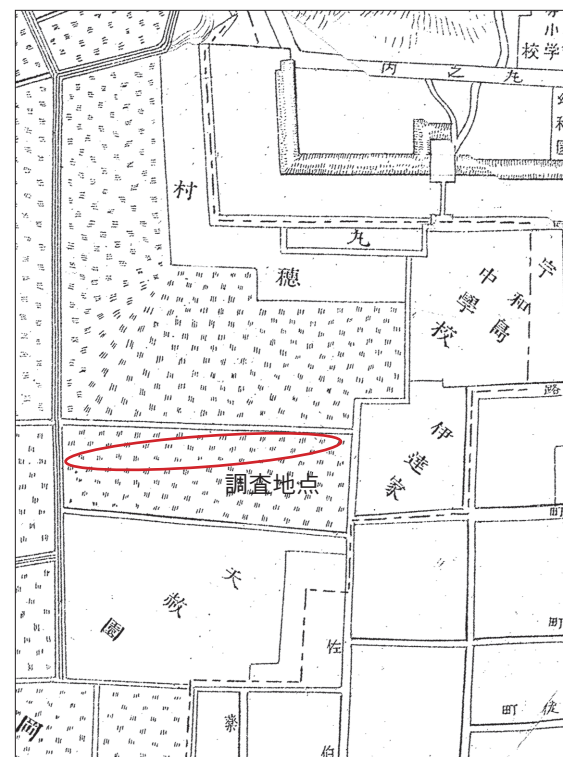
側溝石列



文政 8(1825) 年絵図



明治初 (1868) 年御殿町図面



明治 43(1910) 年宇和島市街図



大正 9(1920) 年以後



宇和島市都市計画図 (H7、S=1:5000)

■御浜御殿の移り変わり（絵図・図面類は（公財）宇和島伊達文化保存会蔵）